

テーマ別評価

「検診車の整備事業への補助」 (案)

公益財団法人JKA

1. 検診車の整備とJKA補助事業とのかかわり

検診車の整備事業への補助の目的及び対象車両

— いつから —

- ・昭和32年 社会福祉事業等後援特別競輪収益金の一部をレントゲン検診車製作資金として、結核予防会等に補助を行う
- ・昭和38年 2号交付金の補助事業として開始した公益事業に引き継ぎ、当初から検診車への補助を行う

検診車整備補助事業の目的

病気の早期発見及び予防

	種類	備考
JKA 補助対象 検診車	胃胸部併用X線 デジタル検診車	生活習慣病又は職業病の検診を目的とするものであること
	胃部X線 デジタル検診車	
	胸部X線 デジタル検診車	
	婦人検診車	乳房用X線撮影装置を搭載したものであること
	循環器検診車	上記検診の補完を目的とするものであること

2. 近年の補助概況

(1) 平成23～27年度の補助実績

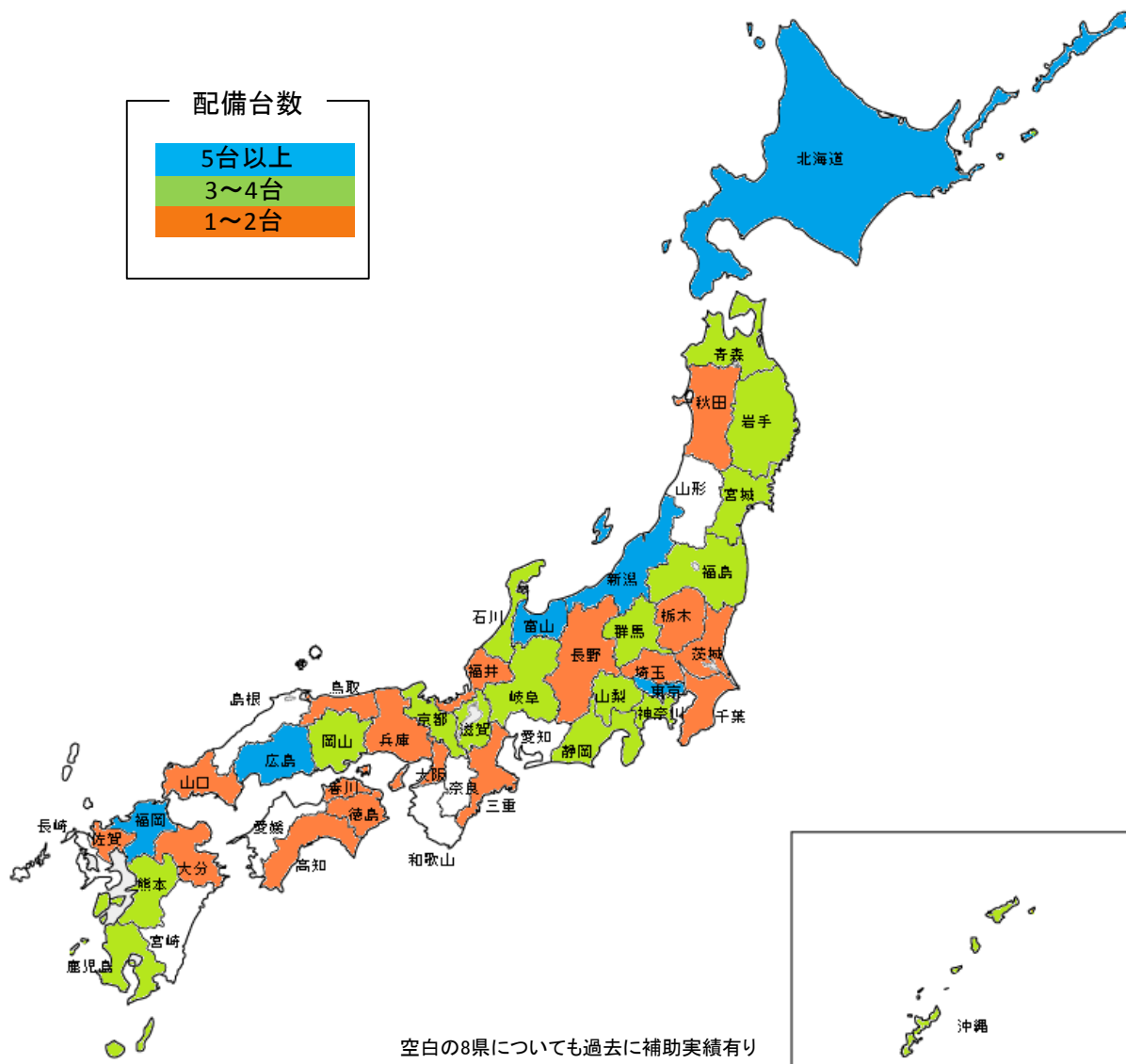
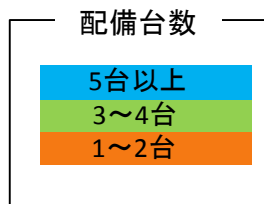
補助事業年度別補助要望・内定状況の推移(平成23年度～27年度)

(台)

事業年度		H23	H24	H25	H26	H27
内定件数／要望件数		20／37	20／46	24／47	27／43	22／27
内定金額(千円)		317,966	338,625	385,350	468,825	388,500
種 類 別 件 数 内 訳	胃胸部	6／11	5／17	7／18	10／15	5／6
	胃部	4／7	6／14	4／9	7／15	10／10
	胸部	8／15	5／7	12／18	10／12	7／9
	婦人	1／3	3／5	1／1	0／0	0／1
内定 ／ 要望	循環器	1／1	1／3	0／1	0／1	0／1

(件数=台数・内定辞退は除く)

2. 近年の補助概況 (2) 平成23～27年度の配備状況



H23-H27	合計	胃胸部	胃部	胸部	婦人	循環器
北海道	5	3		1	1	
青森県	3	2			1	
秋田県	1			1		
岩手県	3		2	1		
宮城県	4	1	1	2		
福島県	3	2		1		
茨城県	2			2		
栃木県	2	1	1			
群馬県	4	1		2	1	
埼玉県	1		1			
千葉県	2		2			
東京都	10	6	2	2		
神奈川県	3	2		1		
新潟県	6	1	3	2		
富山県	6	1	2	3		
石川県	3		2	1		
福井県	1			1		
山梨県	3		1	1	1	
長野県	2	1		1		
岐阜県	4		2	2		
静岡県	3	1	2			
三重県	1	1				
滋賀県	3		1	2		
京都府	4	1	2	1		
大阪府	1		1			
兵庫県	1			1		
鳥取県	1			1		
岡山県	3	1	1			1
広島県	6	2	2	1		1
山口県	1	1				
徳島県	1			1		
香川県	2		2			
高知県	1			1		
福岡県	5	1	1	2	1	
佐賀県	1	1				
熊本県	4	1		3		
大分県	1	1				
鹿児島県	3			3		
沖縄県	3	1		2		
合計	113	33	31	42	5	2

2. 近年の補助概況

(3) 平成23～25年度に補助事業で整備された検診車による推定受診者数

検診車 配備場所	年間推定受診者数 (月平均×12ヵ月) (人)	人口比率	検診車 配備場所	年間推定受診者数 (月平均×12ヵ月) (人)	人口比率
北海道	21,948	0.5%	福井県	16,260	2.5%
青森県	24,756	2.2%	滋賀県	27,240	2.4%
岩手県	14,808	1.4%	京都府	9,600	0.4%
福島県	4,008	0.3%	大阪府	3,012	0.0%
新潟県	27,900	1.4%	兵庫県	23,628	0.5%
茨城県	40,728	1.7%	岡山県	24,012	1.5%
栃木県	17,568	1.1%	鳥取県	16,824	3.5%
群馬県	38,832	2.4%	広島県	62,088	2.7%
新潟県	5,448	0.3%	山口県	4,392	0.4%
埼玉県	5,760	0.1%	香川県	7,716	1.0%
東京都	27,468	0.2%	徳島県	22,524	3.5%
山梨県	18,360	2.6%	高知県	29,940	4.8%
千葉県	11,652	0.2%	福岡県	27,540	0.7%
神奈川県	44,844	0.6%	佐賀県	10,860	1.6%
静岡県	5,064	0.2%	熊本県	42,684	2.9%
富山県	40,812	4.6%	大分県	13,224	1.4%
石川県	8,520	0.9%	鹿児島県	41,688	3.0%
岐阜県	39,672	2.4%	沖縄県	27,360	2.5%
三重県	10,596	0.7%	全国	819,336	0.8%



注1) 人口比率は検診車が配備された都道府県の20歳以上の人口に対する年間推定受診者数の比率を示す。
 注2) 受診者数には20歳未満の者も含まれる場合がある。
 注3) 受診者数には他県の受診者が含まれている県もある。
 (下線表示)

平成23～25年度に補助事業で整備された計64台の検診車により、1年間に全国で約82万人が検診を受診したと推定される。

〈参考〉JKA補助車両による平成26年度の検診実績

事例① 鹿児島県

(公社)鹿児島県労働基準協会
(公財)鹿児島県民総合保健センター

・鹿児島県における巡回検診の7～8割を上記2事業者が実施

・2事業者の保有検診車
⇒計55台
うちJKA補助車両
⇒16台

・2事業者の巡回検診の受診者数
⇒年間約75万人
うち補助車両による受診者数
⇒約30万人

事例② 鳥取県

(公財)鳥取県保健事業団
(公財)中国労働衛生協会

・鳥取県における巡回検診の9割を上記2事業者が実施

・2事業者の保有検診車
⇒計23台
うちJKA補助車両
⇒3台

・2事業者の巡回検診の受診者数
⇒年間約20万人
うち補助車両による受診者数
⇒約3万人

事例③ 福島県

(公財)福島県労働保健センター
(公財)福島県保健衛生協会

・福島県における巡回検診の7～8割を上記2事業者が実施

・2事業者の保有検診車
⇒計62台
うちJKA補助車両
⇒9台

・2事業者の巡回検診の受診者数
⇒年間約56万人
うち補助車両による受診者数
⇒約5万人

(補助事業者へのヒアリングによる)

2. 近年の補助概況

(4) 平成23～25年度補助による検診車両の特別装備状況

補助事業年度別 特別装備種類	特別装備搭載検診車 台数			計
	H23年度	H24年度	H25年度	
昇降用リフト	2	1	7	10
聴覚障害者等向けシステム	0	2	2	4

(台)

【特別装備検診車利用者の声】

○聴覚障害者等向けシステム

- ・目で指示が確認できてよい。

○昇降用リフト

- ・大型リフトにより、昇降の安心感が増した。
- ・待ち合いが広く、入れ替わりがスムーズになった。
- ・車椅子に乗ったままで撮影できたのが良かった。
- ・検診車の階段の昇降が困難なため、電動リフトがあって良かった。
- ・「ストレッチャーが3台搭載されているため、スムーズに検診が行えた」との先方介助者から声が多数あった。一方で、「ストレッチャーの高さ調節ができればなおよし」との意見もあった。
- ・リフトを使用することにより、車椅子のまま検診車に乗り込み撮影できるので、転倒等の心配がなく、安心して検診を受けることができる。

昇降用リフト付き



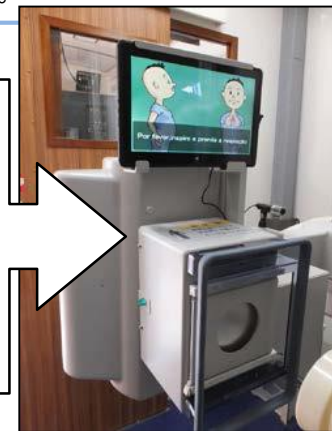
(一社)熊本市医師会
胸部X線デジタル検診車

聴覚障害者及び外国人支援システム搭載



(一財)岐阜県産業保健センター
胃部X線デジタル検診車

5カ国語対応音声発生装置（日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語）聴覚障害者向けシステム搭載

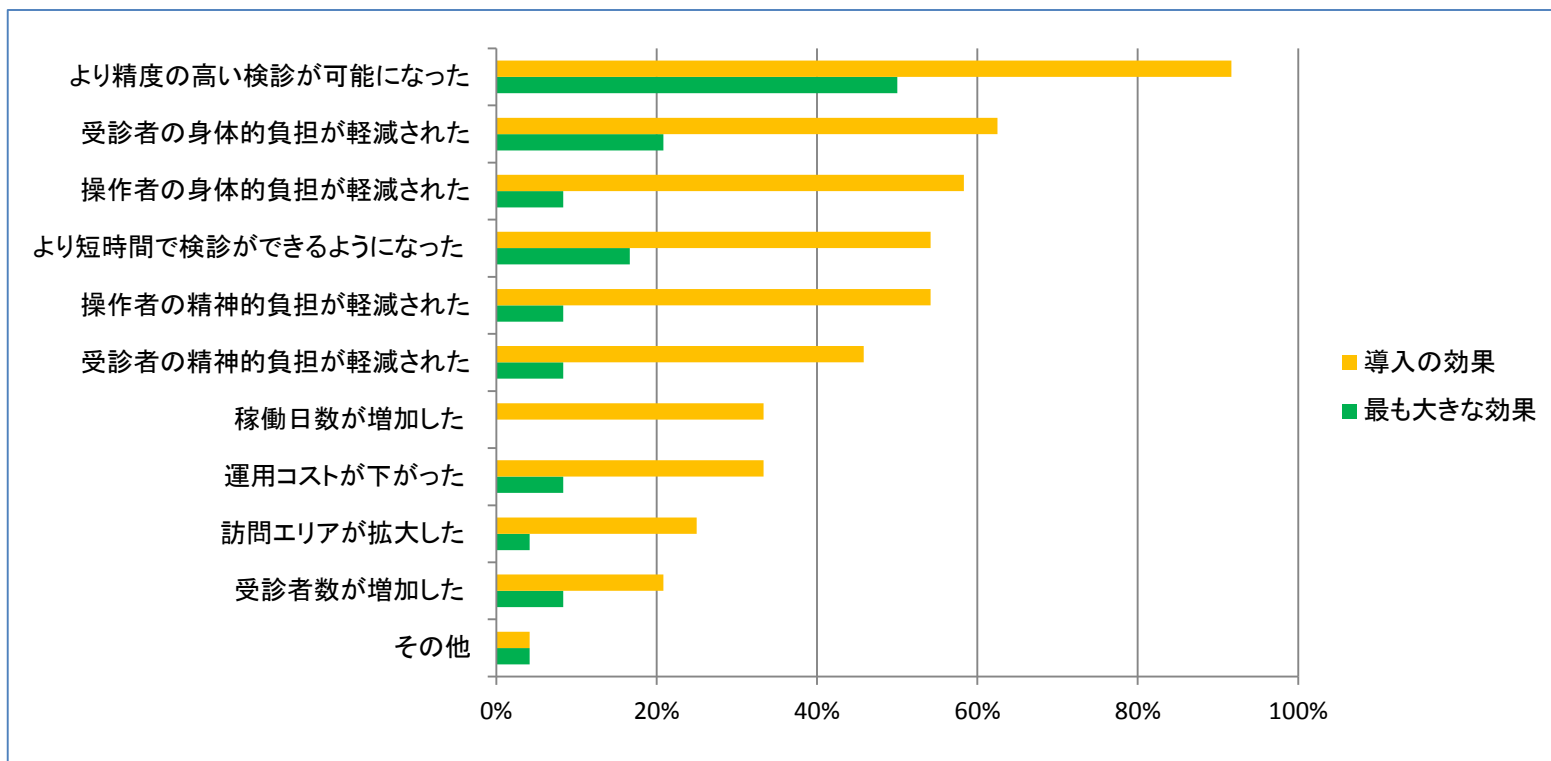


(公財)静岡県予防医学協会
胃部X線デジタル検診車

2. 近年の補助概況

(5) 平成25年度補助による検診車両の導入効果

平成25年度の補助事業者(24事業者)を対象に行ったアンケート結果による。
 当該検診車導入前と比較し、どの様な効果があったかを調査(選択式複数回答可)。さらに、その中から最も大きな効果について調査。



従来のアナログ式からデジタル式に更新した事業者が多かったこともあり、検診車導入の効果として「より精度の高い検診が可能になった」ことを実感している事業者が最も多く、最も大きな効果として挙げられているものも同様であった。

3. 今後に向けた考え方

- 人間ドックなどの健康診断を実施可能な施設は、平成12年の871施設から平成25年は740施設に減少している。

(参考: 公益社団法人日本人間ドック学会公表資料『2013年「人間ドックの現況」』)

- 昭和56年より、日本人の死因トップでありつづけているのが悪性新生物(がん)であり、国では、がん検診の受診率を50%にする目標を掲げ、検診事業をすすめているが、未だ目標達成には至っていない。

(参考: 厚生労働省公表資料『平成26年度がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン』)

- JKA補助による検診車は、長年、地域における受診機会の拡大に貢献してきた。また、競輪・オートレースの補助事業を広く一般に理解して頂く効果も高い。